

直言曲言

特別支援学校で重度障害のある児童生徒への医療的ケアを巡る取材で先月…／鳥取
毎日新聞 2016年2月14日 地方版

<http://mainichi.jp/articles/20160214/ddl/k31/070/329000c>

- > 特別支援学校で重度障害のある児童生徒への医療的ケアを巡る取材で先月、愛媛の県立校で2年半以上ケアを受けられなかった児童の母親（46）を訪ね話を聞いた。学校が昨年11月にようやくケアを始めるまで、母親は何度も学校や県教委に要望を続けたが、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）で見ず知らずの人から「余計なことをするな」と中傷されたこともあったという▲そんな嫌な思いをしながらも、母親は学校への感謝を口にした。「受け入れてもらっている」「ケアをしてもらっている」という感覚で引け目を感じてしまうのだろう▲「権利の確保は善意で左右されるものではない」。母親を支える女性（34）は取材にそう強調した。重度障害のある子供も学校で教育を受けること、そのために必要なケアを受けることは当然に保障される権利であり、学校が「特別にしてあげる」ものではない。今一度、肝に銘じたい。【小野まなみ】
- …などと伝えています。